

単元名 割合 (啓林館)

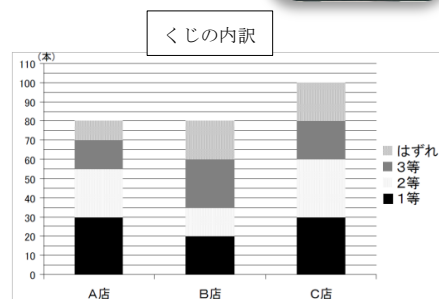
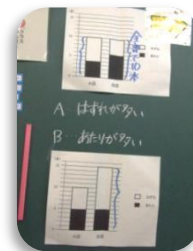
目指す児童の姿

- 基準量と比較量を基に、割合の大小の判断ができる。
- 割合を使ってくじの当たりやすさについて考えるために、グラフから必要な数量を読み取り、根拠となる事柄を明らかにして説明することができる。

指導例

～資料の数学的な解釈と判断の根拠の説明ができるために～

- 1 A店とB店では、どちらが当たりやすいか考える。
- 2 A, B, C各店のくじの全体数と当たりの本数が示された棒グラフから、わかることを考える。
- 3 2等の景品が欲しい時、どの店でくじ引きをすればよいか、その理由を考える。
- 4 結果について発表し、割合で表すことのよさについて確認する。



指導計画

時間	ねらい・学習活動
1	プレテストなどを通して、本単元の学習につながる既習事項を復習する。
2	割合の意味を理解し、比較量と基準量から割合を求めることができる。 ・体験教室の希望者の比べ方を考える。 ・定員に対する希望者の割合を求める。
3	全体と部分、部分と部分の割合を求めることができる。 ・5年生の人数に対する運動クラブ入部者の割合を求める。 ・運動クラブ入部者に対する文化クラブ入部者の割合を求める。
4	基準量と割合から、比較量を求めることができる。 ・定員15人に対して0.8倍の希望者があったときの、希望者の人数を求める。
5	比較量と割合から、基準量を求めることができる。 ・入部希望者が定員の1.6倍になるときの定員を求める。
6	百分率の意味とその表し方を理解する。 ・「パーセント(%)」「百分率」を知り、割合を百分率で表したり、百分率を割合で表したりする。
7	百分率や歩合で表される場合について知り、百分率を用いた問題を解くことができる。
8	前時までの学習内容を用いて、問題を解くことができる。
9	帯グラフと円グラフの意味を理解し、それらのグラフを読むことができる。 ・グラフの名前、特徴を知る。 ・グラフから部分の割合を読み取る。 ・部分と部分の割合を読み取る。
10	帯グラフと円グラフをかくことができる。 ・表から、割合を求め、グラフに表す。
11	基準量の何倍に当たるかを考えて、2つの量の和や差にあたる大きさを求めることができる。 ・定価の10%引きの代金を求める。
12	全体を1として、割合の積を考えて問題の解決ができる。 ・定価から10%引きにし、さらに20%引きにしたときの代金を求める。
13	割合のグラフを用いて、資料の特徴を調べることができる。 ・資料について、みらいさんの言っていることは正しいか、その理由について説明する。
14 本時	グラフを見て、基準量と比較量の大小関係に着目して割合の大小を判断することができる。 ・2等が出やすいのはどの店かを考える。
15	単元末のたしかめの問題を解く。

指導のポイント

- ◇自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えをノートに書くようにさせる。
- ◇グループ活動では、全員が話す機会をもてるよう、継続して指導しておく。
- ◇全体交流の発表はグループ単位で行い、グループのメンバーが交代で説明をするようにさせる。
- ◇子どもの言葉だけで不十分なところがあれば、教師から切り返し、全員で考えさせるようにする。
- ◇前時までの学習の足あとを掲示しておく。また、ノートや教科書で既習内容を振り返りながら考える習慣をつけておく。